| | |
|---|---|
| 氏　　名（本籍） | 塚原保夫（つかはらやすお） |
| 学位の種類 | 医学博士 |
| 学位記番号 | 医博第362号 |
| 学位授与年月日 | 昭和41年3月25日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第1項該当 |
| 研究科専門課程 | 東北大学大学院医学研究科<br>（博士課程）公衆衛生学専攻 |
| 学位論文題目 | Trends in Age-adjusted Death Rates for 20 Causes in 30 Countries, 1950 to 1961<br>（1950年より1961年にいたる間の30カ国における20死因の訂正死亡率の動向） |

（主　査）

論文審査委員　教授 瀬木三雄　教授 本川弘一

教授 高橋英次

# 論　文　内　容　要　旨

著者は１９５０年の世界４６カ国合計人口を標準人口とし，第７回修正国際死因分類の５０項目死因簡単分類表（Ｂ分類）の中に掲げられた約２０種の死因につき１９５０年より１９６１年迄の毎２年次の年令訂正死亡率を下記３０カ国について計算し，併せてこの期間におけるその動向を観察した。〔国名：南アフリカ・カナダ・コロンビア・米国（白人・有色人）・ベネズエラ・セイロン・イスラエル・日本・西ドイツ・西ベルリン・オーストリア・ベルギー・デンマーク・フインランド・フランス・ギリシア・ハンガリー・アイルランド・イタリー・ノルウエー・オランダ・ポルトガル・英国（イングランドとウエールズを含む）・スコツトランド・北アイルランド・スエーデン・スイス・チエコ・オーストラリア・ニユージーランド〕尚，人口及び死亡数の資料として，ＷＨＯ刊行の、Annual Epidemiological and Vital Statistics（１９５０年より１９６１年迄）を用いた。

１９６０－６１年次における訂正死亡率の最高国と最低国，並びに１９５０年以降の年次動向のうち若干の死因につき特に注目すべき点を摘記すれば次の様である。

全死因：最高は男女共にコロンビア，最低は男オランダ，女ノルウエー。スカンジナビア諸国の率が一般に低い。日本は男１０位，女８位である。大部分の国で男女共減率し，殊にイスラエル・セイロン・日本・フランスで著明である。英三国・ノルウエー等の変動は少い。

結核（Ｂ１，Ｂ２）：最高は男ポルトガル，女コロンビア，最低は男女共オランダである。日本は男２位，女４位である。コロンビア以外の国の減率著明である。尚オランダ・デンマーク・カナダの低率国の方が，日本・ポルトガル・フインランドの高率国よりも著しい減少を示す。

悪性新生物（Ｂ１８）：最高は男オーストリヤ，女デンマーク，最低は男女共セイロン。日本は男２０位，女２６位で低率国に属する。男では増率，女では減率している国が多い。セイロン・ポルトガル・イタリー・日本・コロンビアは男女共かなり著しく増加，他の国は変動が少い。

糖尿病（Ｂ２０）：男女共最高は米国有色人，最低は西ベルリン。男の２位セイロンは１位米国有色人とほぼ同率。日本は男低率４位，女低率２位である。男女共増率傾向の国が多く，コロンビア・デンマーク・ポルトガル・日本・ハンガリーの増加が著しい。

中枢神経系の血管損傷（Ｂ２２）：男女共，最高日本，最低セイロンにして，共に他国からとび離れている。男女共，コロンビア・アイルランド・ベルギーが特に増率し，一方，西ベルリン・イスラエル・スイスは著しく減率。尚男では日本・セイロン・ノルウエーの増加が目立つ。

心臓病（Ｂ２５－Ｂ２８）：最高は男米国白人，女米国有色人，最低は男ギリシア，女セイロン。日本は男低率３位，女低率２位。セイロン・ノルウエー・日本の増率と，米国有色人の減率が男女共目立つ。男では増率している国多く，女では減率している国の多い事が特記される。

肺炎（Ｂ３１）：最高は男ポルトガル，女コロンビア，最低は男女共オランダであり，日本は男７位，女１１位。男女共英三国・アイルランド・ポルトガル・米国白人はやゝ増率を示すが，減率を示す国が多く，殊にフランス・イスラエルで著明。日本も男女共減率している。

気管支炎（Ｂ３２）：最高は男英国，女コロンビア，最低は男米国有色人，女米国白人。日本は男１４位，女１０位である。英三国・ポルトガル・アイルランドは高率を示す。男の率の著増する国が多く，女は減率している国が多い。男女共日本の減率が最も著しい。

胃および十二指腸の潰瘍（Ｂ３３）：最高は男女共に日本，最低は男セイロン，女フランス。コロンビアの女は日本とほゞ同率を示す。男女共３位の西ベルリンの率が急増している。男の率は大多数の国で減少し，女は過半の国で増加を示す。日本は男女共減少が著しい。

胃炎，十二指腸炎，腸炎および大腸炎（新生児下痢を除く）（Ｂ３６）：男女共高率国は，コロンビア・ポルトガル・ベネズエラ・セイロン・日本の順で一致し，最低は共にフランス。率減少しつつある国多く，フランス・イスラエル・日本は殊に著明である。コロンビアは増加。

肝硬変（Ｂ３７）：最高は男女共フランス，最低は男ニユージーランド，女アイルランド。日本は男１０位，女６位である。率の増加している国多く，男女共西ドイツ・セイロン・スエーデン・米国有色人で特に増率，フランスは男やゝ増加，日本は男女共多少の増加を示す。

腎炎およびネフローゼ（Ｂ３８）：最高は男ポルトガル，女コロンビア，最低は男女共デンマーク。日本は男女共２位である。フインランド・西ベルリン以外の全ての国において男女共率の減少目立ち，殊にカナダ・米国（白人・有色人）に著しい。

自動車事故（ＢＥ４７）：最高は男西ドイツ，女オーストラリア，最低は男女共セイロン。この最低率国セイロンの他，米国（白人・有色人）がやゝ減少している。増加の著しい国としては日本・フランス・フインランドがあり，他国においても男女共率の増加が目ざましい。

その他の不慮の事故（ＢＥ４８）：最高は男コロンビア，女米国有色人，最低は男英国，女イタリー。日本は男８位，女２４位である。多くの国で減率し，殊にオランダの男女，米国白人・北アイルランド・日本の女は著減。イタリー・ニユージーランドの女の率は増加している。

自殺および自傷（ＢＥ４９）：男女共最高は西ベルリン，最低はアイルランド。日本は男５位，女２位の高率国に属する。増率しつつある国多く，男セイロン・アイルランド，女北アイルランド・スコットランドに著明であるが日本は男女共変動が少い。

# 審査結果の要旨

著者は世界３０カ国における原因別死亡率の年次動向，および１９６０－６１年の率の地理的分布を観察するため，国際死因分類（B分類）に基づく約２０種の死因につき，１９５０年より１９６１年迄の毎２年次の年令訂正死亡率を計算した。なお，標準人口としては１９５０年の世界４６カ国合計人口を用いた。主な結論は次の通りである。

全死因ではオランダおよびスカンジナビア諸国の率が一般に低い。大部分の国で減率を示し，殊にイスラエル・セイロン・日本・フランスで著明である。英三国・ノルウエー等の率の変動は少い。

結核では日本は男２位，女４位と依然として高率国である。コロンビア以外の国の減率著明であり，しかもオランダ・デンマーク・カナダの低率国の方が，日本・ポルトガル・フインランドの高率国よりも著しい減率を示している。

悪性新生物の年次動向では男では増率，女では減率の傾向を示している国が多い。

糖尿病においては男女とも，米国有色人が最高率国で西ベルリンが最低率を示す。日本は低率国に属する。又男女とも増率傾向を見せる国が多い。

日本で特異的に多発すると云われている中枢神経系の血管損傷は，男女とも日本が３０カ国中最高率でありしかも増率を続けている。他に増率著明な国としてはコロンビア・アイルランド・ベルギー等があるが，一方西ベルリン・イスラエル・スイス等のごとく減率を示す国も多い。

心臓病では最高率を示すのは，男米国白人，女米国有色人であり最低率国は男ギリシア，女セイロンである。日本は低率国に属している。男では増率傾向を示す国多く，女では減率している国の多いことが特記される。

肺炎では男女とも最低率を示すオランダをはじめフランス・イスラエル以下多くの国で減率が見られる。この傾向の中にあつて英三国・米国白人が，ポルトガル・コロンビアと共にやゝ増加を見せていることが注目される。

気管支炎ではコロンビアと並んで，英三国・アイルランド・ポルトガルが高率を示し，又男の率が著増している国が多いのに対し，女では減率している国が多い。

胃および十二指腸の潰瘍は，男女とも最高率を示す日本が著しく減率している。又，男の率は大多数の国で減少しているが，女では過半の国で増率している。

上述の点の他，肝硬変ではフランス・ポルトガル・西ベルリンが高率を示す事，腎炎およびネフローゼの率が大多数の国で激減している事，日本・フランス・フインランドにおいて自動車事故による率が他国に比し目ざましく増加している事等が注目される。

上記の研究結果にかんがみ，この論文は，重要死因の地理医学的研究に貢献したものと信ずる。

よつて本論文は学位を授与するに値するものと認める。